

第1回 歴史的資源を活用した観光まちづくり専門家会議 議事要旨

1. 日時：平成29年1月30日（月）17:15～18:15

2. 場所：官邸2階小ホール

3. 出席者：

（政府側）

菅内閣官房長官、石井国土交通大臣、古谷内閣官房副長官補、蝦名内閣官房内閣審議官、西田内閣府地域経済活性化支援機構担当室長、青柳内閣府地方創生推進事務局審議官、時澤総務省地域力創造審議官、佐藤農林水産省農村振興局長、田村観光庁長官

（構成員有識者・敬称略）

植松克則（株式会社千葉銀行法人営業部長）、上山康博（株式会社百戦錬磨代表取締役社長）、金野幸雄（一般社団法人ノオト代表理事）、才本謙二（有限会社才本建築事務所代表取締役）、杉山尚美（株式会社ぐるなび執行役員）、他力野淳（パリューマネジメント株式会社代表取締役）、藤井大介（株式会社大田原ツーリズム代表取締役）、前橋昭夫（株式会社栃木銀行法人営業部長）、宮崎晃吉

（「HAGISO」・「hanare」代表）、村田哲太郎（株式会社スリー・ボックス代表取締役）、米良はるか（READYFOR株式会社代表取締役）、渡邊准（株式会社地域経済活性化支援機構常務取締役）

4. 議題：・歴史的資源を活用した観光まちづくりの今後の進め方について

5. 議事概要

○観光庁より歴史的資源を活用した観光まちづくりの今後の進め方について説明。

○構成員有識者より、それぞれ自己紹介、ご挨拶。

○意見交換の後、石井国土交通大臣、菅内閣官房長官よりご発言。主な内容は以下のとおり。

【石井国土交通大臣】

- ・本日、「歴史的資源を活用した専門家会議」、「歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室」からなる「官民連携チーム」を発足できたこと、皆様に感謝申し上げます。
- ・昨年3月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」においては、「地方」と「消費」が今後の観光政策のキーワードである。
- ・その鍵となる具体的な取り組みとして、昨年9月に政府に「歴史的資源を活用した観光まちづくりタスクフォース」を設置し、地域に眠る古民家等の歴史的資源を、宿泊施設やレストランなど面的に観光資源として活用する方策や、その全国展開に

向けた施策を検討してきたところである。

- ・国土交通省としても、既に市街化調整区域の古民家を宿泊施設として活用する場合などに弾力的に許可が受けられるよう地方自治体に対して技術的な助言を发出するなど、具体的な取り組みを進めている。引き続き「古民家ステイ」をブランド化し、外国人旅行者の地方誘客のキラーコンテンツとして、世界へ発信していく等の施策も進めていくこととしている。
- ・本日の「官民連携チーム」の設置は、これらの施策を含め、国・地方・民間の全てのツールを活用して、地域の方々がストレスなく「歴史的資源を活用した観光まちづくり」に取り組んでいただくための第一歩であると考えている。今後は、地域の取組を、この「専門家会議」と「連携推進室」の官民両輪でサポートしていくこととなる。
- ・1カ所でも多くの地域でこの取組が進んでいくよう、国土交通省としても、今後、地域から寄せられる具体的な御相談・御要望をしっかりと聞きし、率先して取り組んでまいりますが、引き続き専門家の皆様の一層の御協力をお願いするとともに、「連携推進室」のメンバーにおいては、関連施策の一層の深掘り、磨き上げ、規制の見直し等を進めていただきたい。

【菅内閣官房長官】

- ・安倍内閣においては、「地方の元気なくして国の元気なし」、これが基本的な考え方である。そして、地方の特色を生かした「まちづくり」を進め、雇用の場の確保や若者の回帰に成功しているところには、必ず豊かな発想を持った人材がいる。総務大臣当時から、元気な地方には必ず「人」がいると。そういった専門的皆さんが一体となったチームとして、これから観光まちづくりに意欲のある各地に皆さんを派遣していただいたらどうなるか、あるいは各省の職員と皆さんが一体となってまちづくりを進める、そうしたことを何とか支援をすることができないのか、そうしたことを考えてきた。
- ・今日、内閣官房に設置した専門家会議は、観光まちづくり支援のための全く新しい試みだと思っている。どうぞ専門家の皆さんには、これまでの経験・ノウハウを生かしていただき、「日本全国津々浦々を観光で元気にする」ことができるように、御協力をいただきたい。また、連携推進室のメンバーには、人材の育成、規制・制度の改革など、従来の枠組みにとらわれない発想で、地域が活動しやすい環境整備をしっかりとつくってほしい。
- ・日本各地には、まだまだ魅力ある地域が幾らでもある。そうした全国の資源を活用して、2020年までに全国で200地域を目標に取組を進めていきたいので、ぜひお力をお貸しいただきたい。

○蛭名内閣官房内閣審議官より閉会

本日の第1回会合はここで閉会する。なお、次回日程は追って連絡する。

以 上